第３章　教師たちのメディア利用

堀口　秀嗣*

１．教師調査の概要

教師のメディア利用に関する調査は，調査対象校32校の教師全員に対して行った。有効回答数は858であった。

表３－１

	学校数	回答人数	平均人数
小 学 校	11校	207人	18.8人／校
中 学 校	10校	234人	23.4人／校
高等学校	11校	417人	37.9人／校
合　　計	32校	858人	26.8人／校

アンケート項目の構成は以下のようになっている。

		質問数	
・一般的事項		6	項目
・　問１(1)	メディア保有	11	メディア
・　　(2)	メディア利用頻度	12	メディア
・　　(3)	メディア利用の難しさ	12	メディア
・　問２(1)	メディアが役立つと感じたこと	５×４	メディア×頻度
・　　(2)	メディアの虚偽や行き過ぎ情報	５×４	メディア×頻度
・　　(3)	好ましくない場面	4	項目
・　　(4)	メディアの有害情報の規制	4	項目
・　　(5)	メディアの授業利用の頻度	14	利用法
・　　(6)	メディアの授業利用の重要度	14	利用法
・　問３(1)	メディア利用で育みたい力	自由記述	
・　　(2)	児童生徒のメディア利用の意見	自由記述	

合計で117項目と２つの自由記述欄で構成した。このうち，問１(1)から問２(4)まで83項目は児童生徒と共通である。これによって，同時期の教師と児童生徒の違いを比較できる。

＊国立教育政策研究所教育研究情報センター

２．アンケートの項目別集計と分析

⑴　回答した教員の概況

ア）年齢構成（表３－２）

表３－２

	小学校	中学校	高等学校	合　　計
20代	23(11.1)	28(12.0)	50(12.0)	12%
30代	54(26.1)	69(29.5)	**142(34.1)**	31%
40代	**89(43.0)**	**88(37.6)**	117(28.1)	34%
50代	39(18.8)	41(17.5)	100(24.0)	21%
60歳以上	2(1.0)	6(2.6)	6(1.4)	2%

注）太字は校種別の最頻値である。（　）内は校種別のパーセント。

全体として人数の多いところは，小・中学校は40代がピークであることと，各年代の比率が類似しており，ほぼ同じ年齢構成といえる。一方，高等学校はピークが30代であることと，50代の比率が小中学校より高いことから，分布が少し若い方へシフトし，かつ広がっていることがわかる。

イ）コンピュータ利用経験年数（図３－１）

⑴　なし	191
⑵　１～２年	212
⑶　３～５年	177
⑷　６～10年	152
⑸　11年以上	118

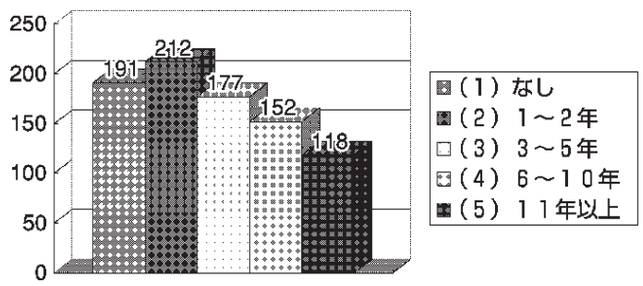
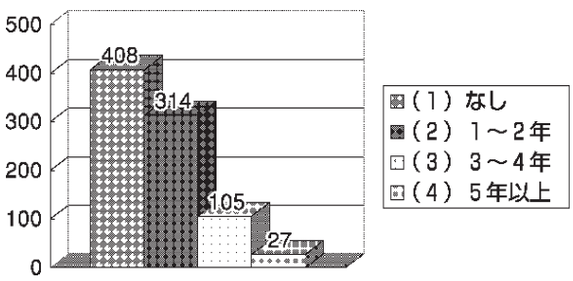


図３－１

コンピュータ経験は⑵１～２年が最も多いが，⑴なし　から⑷６～10年　までかなり広がりがある。さすがに⑸11年以上は少なくなっているが，それでも１校平均3.7人もいるのは予想外であった。そこで，⑸を校種別に見てみると，小学校13人，中学校23人，高等学校82人で，圧倒的に高等学校が多い。商業，工業の教師が含まれていることを考えるとこの数字は納得できる。小学校は１校当たり１人，中学校は１校当たり２人になる。

ウ）インターネット利用経験年数（図３－２）



⑴　なし	408
⑵　１～２年	314
⑶　３～４年	105
⑷　５年以上	27

図３－２

インターネット経験は(1)なしがほぼ半数，経験も１～４年の範囲内である。(4)５年以上の27人の内訳を見てみると，小(7)，中(6)，高(14)とコンピュータ経験ほど校種間の差はない。これはインターネットの利用がほぼ同時期に一斉に始まったということであろう。

(2) メディアの保有状況

問１(1)　あなたは次のメディアを持っていますか？（図３－３）

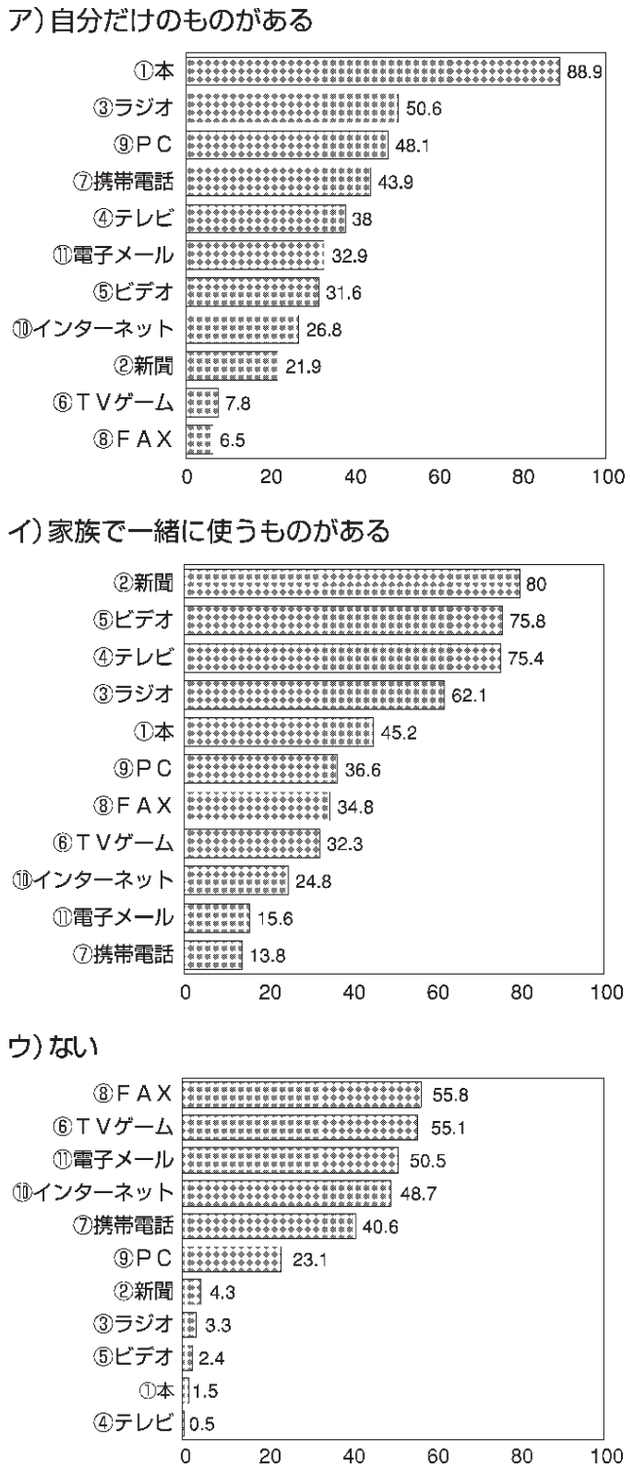


図３－３

メディアごとの考察は報告書を参照していただきたい。全体的な考察のみ以下に述べる。

(ア) 自分専用があるメディアで多いものは，本（89%），ラジオ（51%），PC（48%），携帯電話（44%）の順になっている。このうち，PCが含まれていることは注目したい。教員は自分専用のパソコンを半数近くが持っていることになる。

(イ) 家族用と個人用と両方あるものは，本（39%），ラジオ（18%），テレビ（16%），ビデオ（12%）の順であった。この中で，ビデオが入っていることは注目したい。ビデオが複数台ある家庭を考えてみると，家庭用としてテレビとビデオのある家庭が2台目以降のテレビを購入するときにテレビデオのようなビデオ一体型テレビを購入するケースがこの数字を高めているのではないだろうか。

(ウ) 持っていない人が多いメディアはFAX（56%），TVゲーム（55%），電子メール（51%），インターネット（49%）の順である。

この調査の後に，2001年までにすべての学校からインターネットにアクセスできる状況になったことと，インターネットや携帯電話やｉモードメールの爆発的な普及［世帯浸透率62.4%，インターネット人口4619.5万人　2002年版インターネット白書（財団法人インターネット協会監修）］という状況を考えると，携帯電話，電子メール，インターネットは持っている人が大幅に増加していることが予想できる。

(3) メディアの利用頻度

問1(2)　あなたは次のメディアを使って（読んで）いますか？（図3－4）

前項目が⑪までのメディアであったのに対して，この問からはメディアとして⑫携帯メールを追加している。ここでは全体的な特徴のみを述べる。

(ア) ほぼ毎日使うメディアは多い順に，テレビ（89%），新聞（86%），本（59%），ラジオ（42%），パソコン（40%）であった。教員にとってテレビが新聞よりもよく見られることは特筆したい1つである。この調査だけでは理由は明確にならないが，勤務時間の早い教師が時計代わり・新聞代わりに各社の朝刊の第1面や社会面，芸能面などを短時間で比較してくれるテレビ番組を見ていることが考えられる。

(イ) 時々使うメディアは多い順に，ビデオ（72%），ファックス（48%），ラジオ（16%），本（36%），パソコン（34%）の順であった。このうち，ラジオ，本，パソコンはほぼ毎日使うと回答した人も多いことを考えると，合わせて比較的よく使うメディアだと考えられる。

(ウ) 使わないメディアは多い順に，携帯メール（77%），テレビゲーム（76%），電子メール（57%），インターネット（47%），ファックス（44%）の順であった。このうち，電子メールやインターネットは保有状況でも述べたように，現在では保有が進み，さらに授業での利用が本格的に始まっていることから，急激に増えているものと思われる。

問１(2)　あなたは次のメディアを使って（読んで）いますか？（図３－４）　（%）

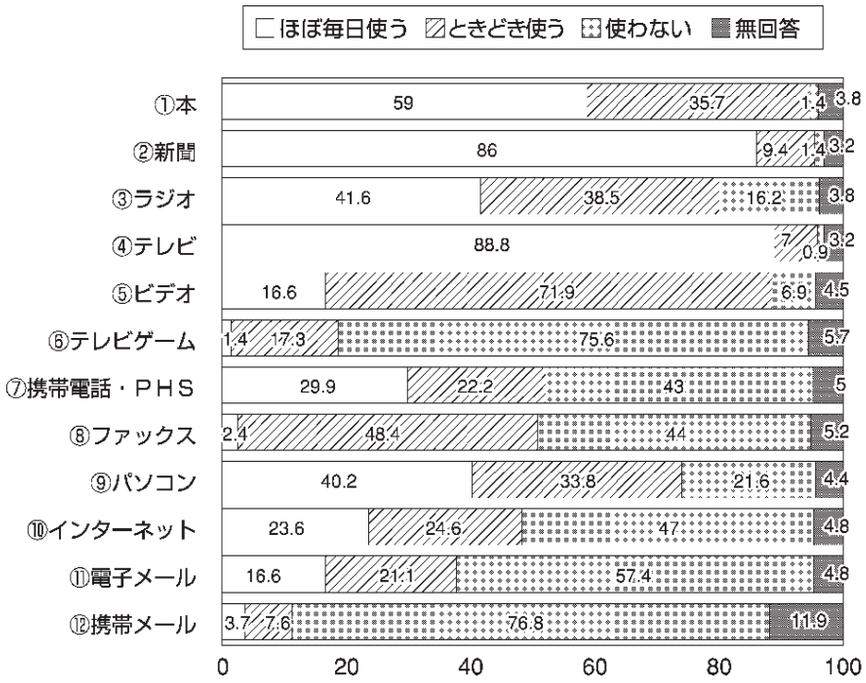


図３－４

⑷　メディアの難しさ

問１(3)　あなたは次のメディアを使うことがむつかしいと思いますか？（図３－５）

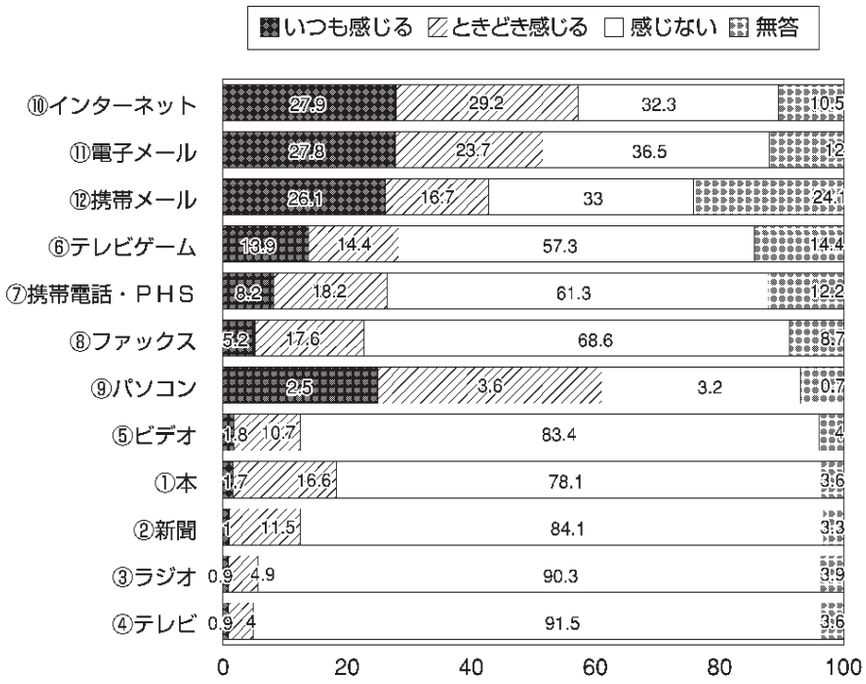


図３－５

ここでも全体的な傾向を述べる。

(ア) 本や新聞を時々難しいと感じるという回答があるが，その難しさは内容的な難しさであろう。これに対して，パソコン，インターネット，電子メール，携帯メールは，操作や機能習得が難しいと感じての回答であろう。

(イ) 難しいと感じない項目を見てみると，①本から⑧ファックスまでアナログ時代からのメディアはすべて50％を越えており，⑨パソコン以降とは顕著な差がある。まだデジタルの機能豊富さ，操作の複雑さを使いこなしていない状況が見られる。ちょうどその逆の現象が「いつも難しさを感じる」グラフにも現れている。

(5) メディアが役立った体験

問2(1) あなたは新聞や雑誌，テレビ，インターネットなどのメディアからの情報によって次のような体験をしたことがありますか。

表3－3

メディア	元気が出た事	学習に役立った事	遊びに役立った事	授業に役立った事
本で	1.83	1.39	1.82	1.58
新聞で	2.17	1.69	2.11	1.83
雑誌で	2.10	1.98	1.85	2.18
テレビで	1.94	1.86	1.97	2.01
インターネットで	2.71	2.40	2.48	2.51

注）各項目の数値は「よくある」を1として，「全くない」を4としたときの平均値である。

(ア) メディアによって元気が出た事では，全体を平均すれば本とテレビが「よくある」「ときどきある」の間にあり，新聞，雑誌は「ときどきある」と「あまりない」の前者寄りになっている。

(イ) 学習に役立った事では，インターネット以外は1点台であるように，メディアが自分の学習に役立っている。特に本と新聞は役立っていると感じている。

(ウ) 遊びに役立った事では，本，雑誌，テレビが役立っており，新聞やインターネットは役立つ場面がやや少ないようである。

(エ) 授業に役立てた事では，本，新聞が多く，テレビが次いでいる。

本，新聞，テレビが利用頻度が高い中で，そこから得られる情報が役立っていると感じる場面が多いようである。逆にインターネットは他のメディアよりも役立った貢献度は少ない結果であったが，これも調査時期の特徴であって，現在とは異なることが予想される。

(6) メディアの情報のマイナス面

問2(2) あなたは本や新聞，雑誌，テレビ，インターネットなどのメディアからの情報について，次のように感じたことがありますか（表3－4）

(ア) 教師の感覚では，本はもっともマイナス面が少ないメディアと感じている。それは，そういう書籍を選んで購入しているからであろう。一方，新聞は配達されてくるという点で，選択することなく配達されてくることから，本に比べて若干マイナス面を感じているようである。

(イ) 雑誌，テレビは本や新聞に比べるとマイナス面を感じることが多いようで，「報道が行き

表 3－4

メディア	事実と相違	考え方に偏り	気持を傷つけ	報道が行過ぎ
本	2.30	2.05	2.41	2.35
新聞	2.26	2.08	2.15	1.93
雑誌	1.85	1.79	1.72	1.55
テレビ	1.92	1.83	1.63	1.44
インターネット	2.07	1.98	1.97	1.93

注）各項目の数値は「よくある」を1として，「全くない」を4としたときの平均値である。

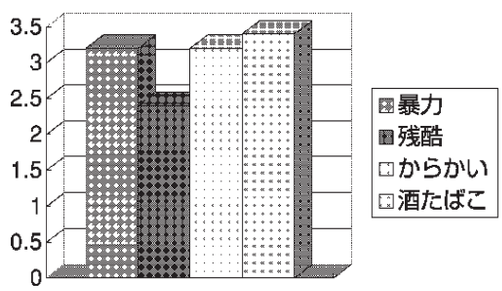
過ぎ」と感じることが特に多かった。

(ウ) インターネットはどの項目も「時々ある」と感じられているが，情報量が膨大でしかも毎日変化しているメディアであるだけに，全体像がつかめずに，このような回答になったと思われる。

(7) 児童生徒に好ましくない暴力場面等

問2(3) あなたはテレビ番組の次のような場面に対してどのように考えますか（図3－6）

問2 (3)	
暴力	3.2
残酷	2.4
からかい	3.2
酒たばこ	3.4



注）表の各項目は「今のままでよい」を1，「やめるべきである」を4として求めた平均値である。

図 3－6

(ア) 全体的に「少なくするべきである」「やめるべきである」という強い意見が多い。しかし，残酷な場面は「しかたがない」に近かった。ニュースやドキュメンタリーなどの残酷な場面は真実だから「しかたがない」となるのだろうか。

(イ) 「酒・たばこのコマーシャル」は「やめるべきである」と考えている教師が最も多かった。

(8) 有害情報の規制

問2(4) あなたは本や新聞，雑誌，テレビ，インターネットなどが提供する有害と思われる情報をどのようにすべきだと思いますか。（図3－7）

「法律で制限すべき」「制作側が配慮」と考えている教師が多く，「近づけない工夫」と「利用者が判断」は11％であった。前者は提供側の努力を期待するもので，後者は情報の受け手（教師や生徒）が判断するであり，圧倒的に提供側の配慮を望んでいる。

有害対処	頻度
法律で制限	320(37%)
制作側が配慮	315(36%)
近づけない工夫	91(11%)
利用者が判断	98(11%)
無回答	42(5%)

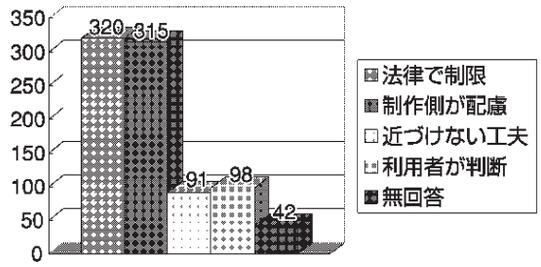


図 3－7

⑼　授業利用の経験と重要度

問 2(5)　あなたは次のような授業を行ったことがありますか。(表 3－5)

(6)　あなたは今後，次のような授業がどの程度重要であると思いますか。(表 3－5)

表 3－5

学　習　活　動	授業利用	重要度
①　新聞の記事を教材として使う	2.35	1.92
②　テレビ番組を教材として使う	2.53	2.27
③　コンピュータを利用する	2.87	1.86
④　インターネットの情報を教材として使う	3.06	2.05
⑤　コンピュータの操作方法を学習させる	3.02	1.85
⑥　インターネットのアクセス方法を学習させる	3.34	2.00
⑦　新聞を使って調べさせる	2.85	1.90
⑧　インターネットで調べさせる	3.32	1.94
⑨　新聞の記事について分析や評価をさせる	3.15	2.04
⑩　テレビ番組について分析や評価をさせる	3.35	2.29
⑪　インターネットの情報について分析や評価させる	3.55	2.18
⑫　新聞を作らせる	2.92	2.22
⑬　テレビ番組やラジオ番組を作らせる	3.61	2.70
⑭　インターネットのホームページを作らせる	3.58	2.51

注 1）授業利用は「よく行う」を 1，「行ったことはない」を 4 として，回答者の平均値を示した。
注 2）重要度は「非常に重要である」を 1，「重要ではない」を 4 として，回答者の平均値を示した。

この表は，学習活動の 5 通りとメディアの 4 つを組み合わせて作成し，実際に行われている①～⑭の活動に整理して聞いたものである。

学　習　活　動
教材としての利用
調べ学習
それ自体を学習
分析・評価の対象
制作

メ　デ　ィ　ア
新聞
テレビ番組
コンピュータ
インターネット

〈授業での利用経験の順位〉

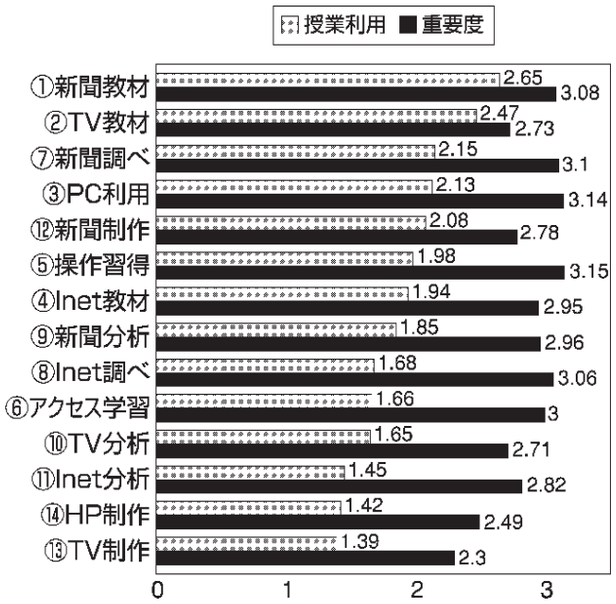


図 3－8

これを見ると，教材としての利用と調べ学習が多く，分析・評価や制作は少ない傾向が見られる。児童生徒の力量や制作には時間がかかることなど，学習活動として取り入れにくい状況があるからであろう。メディアとしては新聞が上位に来ていることは，児童生徒の多くが日常的に利用していて活動に取り入れやすいからであろう。インターネットが全体的に低い場所に来ているのは，学校でパソコンやインターネットが日常的に利用されていない現れであろう。

〈重要度と授業利用〉

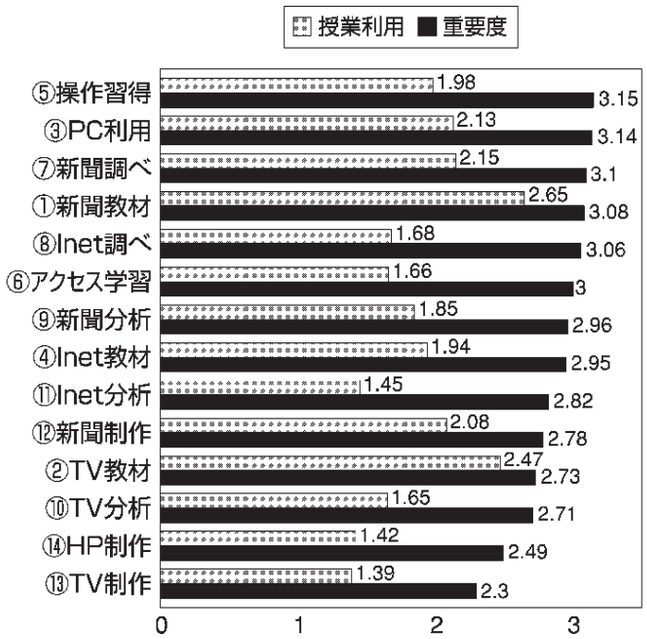


図 3－9

このグラフは今後重要になると思われる授業でのメディア利用の項目（重要度）について，重要度が高かった順に並べ替え，その学習活動を行った経験をグラフに併記した。

新聞教材，TV 教材，新聞調べ学習は重要度も授業利用も高いので，実際に使っていて重要性を感じているメディアと活動である。逆に，使っていないけれど今後重要になると感じている活動とメディアとして，授業利用が1.5以下であるインターネット分析，ホームページ制作，TV 制作がある。また，「コンピュータの操作方法を学習させる」「コンピュータの操作法を学習させる」というコンピュータ関係の２つの学習活動が重要度の最も高い２つになっている。

表３－６

上位５項目　　〈授業利用と重要度　上位５項目，下位５項目〉

授　業　利　用	重　　要　　度
①　新聞の記事を教材として使う	⑤　コンピュータの操作方法を学習させる
②　テレビ番組を教材として使う	③　コンピュータを利用する
⑦　新聞を使って調べさせる	⑦　新聞を使って調べさせる
③　コンピュータを利用する	①　新聞の記事を教材として使う
⑫　新聞を作らせる	⑧　インターネットで調べさせる

下位５項目（低い順）

授　業　利　用	重　　要　　度
⑬　テレビ番組やラジオ番組を作らせる	⑬　テレビ番組やラジオ番組を作らせる
⑭　インターネットのホームページを作らせる	⑭　インターネットのホームページを作らせる
⑪　インターネットの情報について分析や評価させる	⑫　新聞を作らせる
⑩　テレビ番組について分析や評価をさせる	②　テレビ番組を教材として使う
⑥　インターネットのアクセス方法を学習させる	⑥　インターネットのアクセス方法を学習させる

⑽　今後特に重要だと思う使い方（ベスト３）

問２(6)　あなたは今後，次のような授業がどの程度重要であると思いますか。①から⑭のそれぞれについて，あてはまる番号に１つ○をつけてください。また，①から⑭の中で，あなたが「特に重要だ」と思うものを３つまで選び，その順に記号を次の欄にご記入ください。

表３－７

項　　目	第一位	第二位	第三位	合　計	%
③　PC 利用	159	67	48	274	31.6%
①　新聞教材	187	21	22	230	26.6%
⑤　PC 操作学習	85	94	40	219	25.3%
⑨　新聞記事分析	66	64	60	190	21.9%
⑧　インターネットで調べ	27	67	94	188	21.7%
⑦　新聞調べ学習	39	72	56	167	19.3%
④　インターネット教材	35	74	45	154	17.8%
⑪　インターネット	9	21	90	120	13.9%
⑩　TV 番組分析	13	54	39	106	12.2%
⑥　I Net アクセス	12	49	44	105	12.1%
②　TV 番組教材	27	60	15	102	11.8%
⑫　新聞制作	13	9	44	66	7.6%
⑭　ホームページ作成	1	4	29	34	3.9%
⑬　TV ・ラジオ番組制作	1	3	13	17	2.0%
合　　計	674	659	639	1972	
無答数・空欄回答数	192	207	227	626	

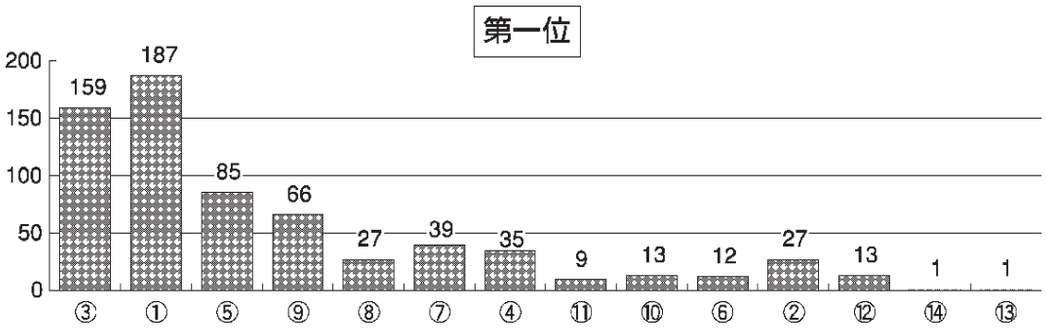


図 3 -10

(ア) 第一位で飛び抜けて高い値を示したのが，「③コンピュータを利用する」「①新聞の記事を教材として使う」であった。

(イ) 低い方で特徴的なのは，「②テレビ番組を教材として使う」である。第一位にあげた人が27人で 7 番目だったが，第三位までの合計では11番目と低い結果となった。
第二位，第三位の集計と考察もあるが，報告書を参照していただきたい。